

台湾で一番有名な日本人は教科書にのる 八田 與一

2013年8月17日
NHKラジオ



八田 與一（現在の字体では八田与一、はった よいち、1886年2月21日 - 1942年5月8日戦死）は、日本の水利技術者。日本統治時代の台湾で、農業水利事業に大きな貢献をした人物として知られる。

八田は現在でも台湾で一番有名な日本人で、台湾の教科書にのっています。八田は台南の烏山頭ダムを造った責任者でダムの畔にお墓と銅像があります。

昭和21年12月15日、嘉南の農民たちによって八田與一夫妻の墓がその地に建てられた。

作業着姿の銅像とともにいまも農民たちの手で守られて、今でも毎年5月8日PM、神輿のごとく幕っていた八田與一のために現地の人々によって追悼式が行われている。

近年に八田與一記念公園も造られた。住んで居た家屋が 忠実に再現されている。道路にも『八田路』がある。

現在でも中学生向け教科書『認識台湾 歴史篇』に八田の業績は詳しく紹介されている。

2004年（平成16年）末に訪日した李登輝台湾総統は、八田の故郷・金沢も訪問した。

2007年5月21日に陳水扁総統は八田に対して褒章令を出した。

また馬英九次期総統（当時）も、2008年5月8日の烏山頭ダムでの八田の慰霊祭に参加した。翌年の慰霊祭に参加し、八田がダム建設時に住んでいた宿舍跡地を復元・整備して「八田與一記念公園」を建設すると語った。2009年7月30日に記念公園の安全祈願祭、2010年2月10日に着工式が行われ、2011年5月8日に完成した。完成式典には、馬英九総統や八田の故郷・石川県出身の森元首相が参加した。記念公園は約5万平方メートルだが、約200棟の官舎や宿舍のうち4棟は当時の姿に復元された。宿舍は一般公開されている。

日本においては、土木・水利研究者を除いてあまり知られていないが、司馬遼太郎の『街道をゆく』や小林よしのりの『新ゴーマニズム宣言スペシャル・台湾論』などで取り上げられている。

また、2008年には、八田を描いた長編アニメ映画「パッテンライ!! ～南の島の水ものがたり～」が制作され、同年10月以降、與一の故郷である金沢市をはじめ、各地で上映が行われている。

1918年（大正7年）、八田は台湾南部の嘉南平野の調査を行った。嘉義・台南両庁域も同平野の区域に入るほど、嘉南平野は台湾の中では広い面積を持っていたが、灌漑設備が不十分であるためにこの地域にある15万ヘクタールほどある田畑は常に旱魃の危険にさらされていた。

そこで八田は民政長官下村海南の一任の下、官田溪の水をせき止め、さらに隧道を建設して曾文溪から水を引き込んでダムを建設する計画を上司に提出し、さらに精査したうえで国会に提出され、認められた。

事業は受益者が「官田溪埤圳組合（のち嘉南大圳組合）」を結成して施行し、半額を国費で賄うこととなった。このため八田は国家公務員の立場を進んで捨て、この組合付き技師となり、1920年（大正9年）から1930年（昭和5年）まで、完成に至るまで工事を指揮した。

そして総工費5,400万円を要した工事は、満水面積1000ha、有効貯水量1億5,000万m³の大貯水池・烏山頭ダムとして完成し、また水路も嘉南平野一帯に16,000kmにわたって細かくはりめぐらされた。この水利設備全体が嘉南大圳（かなんたいしゅう）と呼ばれている。



銅像と墓

日本時代も終わってからは、蒋介石が日本の形跡を消すことに躍起になっていた時代だったため、烏山頭管理事務所の人達は、こっそりとこの銅像を別のところに保管していた。そして1981年、ようやく八田與一の銅像は、この烏山頭水庫の元の場所に戻るようになった



烏山頭ダム

烏山頭ダム。下村海南によって珊瑚潭の美称が与えられている（2004年3月11日）。現在でも烏山頭ダムは嘉南平野を潤しているが、その大きな役割を今は曾文溪ダムに譲っている。

この曾文溪ダムは1973年に完成したダムで、建設の計画自体も與一によるものであった。また、與一の採った、粘土・砂・礫を使用したセミ・ハイドロリックフィル工法（コンクリートをほとんど使用しない）という手法によりダム内に土砂が溜まりにくくなっており、近年これと同時期に作られたダムが機能不全に陥っていく中で、しっかりと稼働している。

烏山頭ダムは現在公園として整備され、八田の銅像と墓が中にある。また、與一を顕彰する記念館も併設されている。

